本紙は女性による平和と平等を推進します

回覧

発行所
㈱全国婦人新聞社
〒160 本社　東京都新宿区西新宿3—7—28　宝幸西新宿ビル
電話03（343）1846代表
振替口座　東京　172320
〒543 支局　大阪市天王寺区勝山2—202
電話06（771）7415

全国婦人新聞

ご購読料
1年　3,800円
（郵送料とも）
現金・切手・振替で前納
（月3回発行）
10日・20日・30日

長い目でビジョンを育てる
興銀

核兵器の廃絶と軍縮を！

特集

82年平和のための東京行動

立場信条を越えて

人類のあす祈り40万人

かつてない大団結

5・23「東京行動婦人のつどい」

第二回国連軍縮総会を目前に控えた五月二十三日、核兵器の廃絶と軍縮を求めて「82年平和のための東京行動」がくりひろげられた。代々木、上野、明治の三公園九会場で約四十万六千人（主催者発表）が参加。画期的な規模の集会となった。

この日、空は雲ひとつなく晴れ渡り、朝早くからつめかけた人びとで、会場はいっぱい。よくもこれだけ……と同じ思いの人で埋まる広場に、胸を熱くした人も多いだろう。北海道、東北、九州、広島……全国からこの日のために上京した人も多かった。労働組合の参加者も、家族づれ、子供づれが多く、なんとなくお祭りめいた、和やかなムードがただよっていた。

また、三千万署名運動を進めてきた「国民運動推進会議」（呼びかけ人　中野好夫氏ら）にこの日までに届けられた署名は、二千五百万人をこえた。未届けのもの、他団体（宗教団体など）で集めている署名を集めると、六千万人になるだろうと思われる。

ひとり、ひとり、ひとり。四十万もの人びとが、この日何をし何を考えたか——。それはとても、小人数の私たちが、どんなに走りまわっても捕えられるものではないが、ともかく、一日せいいっぱい、歩き、聞き、カメラでとらえたこの日の模様を伝えてみよう。

イベントのトップを切って、午前十時半から、上野公園噴水前のメイン会場で、5・23「東京行動婦人のつどい」が開かれた。婦人の行動を広げる会（三十九婦人団体）の主催だ。紀平悌子さん（婦人有権者同盟）の開会の言葉で幕開け。田中里子さん（全地婦連事務局長）の司会で進行した。広げる会を形づくる三十九団体の代表がプラカードを持って登壇すると、さしものメインイベント会場の舞台もいっぱい。全国組織の大団体も、会員数数十人の小さいグループも、思想信条のちがいを越えて、スクラムを組んで並んでいる。

"核兵器廃絶、戦争のない世界"をめざして、このかってない大団結が達成されたのだ——。

"婦人のつどい"の軸を貫ぬいたのが、婦人三世代からの訴えだ。トップを切って話したのが、七十歳代の東京都の武蔵野市在住の小池順子さん。

「耐え忍べ、不平をいうな、がまんしろ。心で泣いて、笑顔で夫を戦地へ送り出したのが私たちの世代です。私は武蔵野市に五十年住んでいます。すぐ近所に、中島飛行機の、クリーム色の美しい建物がありました。当時私はこれが日本の戦争を荷っている工場の一つとは知らず眺めていましたが、中島飛行機の空襲で一トン爆弾の音の鳴り響く中、防空壕で四人の幼な子を抱え、ふるえていたときのことを忘れることの出来ません。

それから岩手県の山奥に疎開しましたがもそんなところでも戦争と無関係ではいられず、仙台の空襲のとき、一晩中空がまっ赤に焼け、一睡もせず眺めていたことを思い出します。

私は戦後、憲法第九条を見て涙が止まりませんでした。平和とは何といいものか。この幸せを二度と奪われてはならないと思いました。

いまもまた、核戦争の危機がせまっています。戦前、女は発言の自由を持っていませんでした。いまは、どんなことでもいえるのです。発言しましょう。

来年は選挙の時です。一票を使って平和な世の中を」

つぎに訴えたのは、「ガラスのうさぎ」の作者、高木敏子さん。体調を崩している高木さんは、心配していたが、なんとかきょうここに来れた、と語り

「……昨年暮、手術をしましたが、そのとき予備調査で家族の健康状態を書く欄がありました。書きはじめて筆が止まってしまいました……」と語りはじめた。高木さんは父、母、姉二人の四人を戦災で失っている。

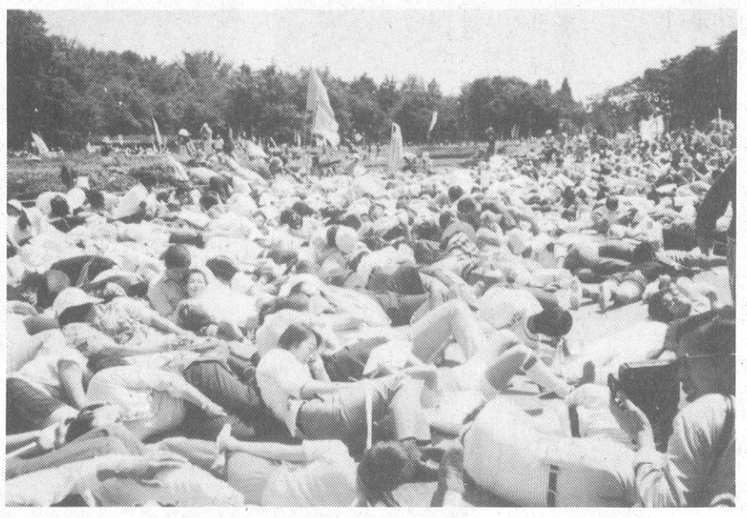
「……八月十五日。家の焼け跡で、焼けただれたまま残っている金庫を叩いて、私は泣いていました。あと十日、早く終っていれば母は死なかった。あと、五カ月早ければ、母も妹も死なかった——。日本は一応、いま平和です。息子は徴兵に行かないですみます。平和のままで、青空のままで、次の世代に日本の国を渡したい。日本国中の人々が、戦争はいやだ、核はいやだと思っています。鈴木善幸さん。国連で、このことを日本国民の名で、胸を張っていってください！」

最後にたったのは二代の主婦、神奈川県鎌倉市の駒野智佳子さん。お腹に八カ月の赤ちゃんがいる。

「私は、戦争を知らない世代です。私は、三月まで小学校の教員だったのですが、今の子は親の世代も戦争のことをあまり知らず核家族化の中で育ち、戦争のことを全く知らないのです。軍艦、戦闘機、カッコイイ。防衛大へ行ってカッコよく闘おうぜ、といった具合です。私たち二代は、この世代と戦争を知っている世代の間に立ち、橋渡しをしなければ、と思います。

夏には私も一児の母となります。お腹の中で動いている子に生命の尊厳を感じます。この子の育つ社会が平和でなければ——。お腹の中で動いている子の叫びでもあります……」

話の中に、新谷のり子、菅原やすのりさんの歌。原爆詩人、栗原貞子さんの詩「生ましめんかな」の朗読（朗読・宮崎総子さん）など。最後に、三千九団体のプラカードの並ぶ中で、婦人のつどいの「アピール」が採択され、"原爆許すまじ"の大合唱の中、幕を閉じた。



青空のままの日本を子供らへ

（写真は上野公園・噴水前でのダイ・イン）

婦人のつどい—39団体のプラカードが立ち並ぶ中でアピール採択

代々木会場のメインステージ。ここでも人、人……の渦だった

アピール

地球の滅亡につながる核兵器を廃絶し、軍縮を実現しなければ、人類の未来はありません。世界情勢は緊迫し、もう一刻の猶予もありません。

さまざまな思想、信条のちがいをこえて、核戦争を阻止し平和をめざして、私たちは行動をおこします。

唯一の被爆国民として、この悲劇を人類のうえに再びくり返すことのないように、いまこそ声を天にして世界に、核兵器完全禁止と軍縮を訴えましょう。

政府が、このわたくしたちの平和への願いを実現するよう、婦人の行動をさらに広げます。

核兵器廃絶と軍縮を実現し、平和な世界をきづきましょう。

すべての婦人が手をつなぎ、子どもたちの未来を守りましょう。

一九八二年五月二十三日
5・23東京行動
婦人のつどい

交流会で語り合う

空白の二日を埋める特集に…

会場で配布された当時を再現する新聞

"ヒロシマ行動"に参加して

—島田　トモ子

三月二十一日、被爆地・広島では五月二十三日の東京行動に先駆け「82・平和のためのヒロシマ行動」が開かれた。スローガンは「世界から核兵器をなくそう！—ヒロシマ・ナガサキの心を世界へ！」当日、東京から同集会に参加した反核・三千万署名推進新宿実行委員会事務局の島田トモ子さんに、集会に参加した手記を寄稿していただいた。

広島・平和公園を中心に行われたヒロシマ行動のメイン・ステージ

反核・三千万署名推進新宿実行委員会の職場と地域の仲間十六名は、三月二〇日ブルートレインで広島に向った。

何といっても広島は非常に美しい街という印象が強く、公園に立ちならぶモニュメントと、青い空が、破壊しつくした原爆の悲惨さと、頭の中ですれちがいを起こしている。

まず、資料館の見学です。「新潟におとされたかもしれない。自分も生きていなかっただろうと思うとおそろしい」説明のテープに耳をかたむけた人がいった。「広島の下真中にみごとに落としたもんだ」「放射能は今だって残ってるに違いない」「核の恐ろしさというが、少しでも知識がましたと気がする」……人々にもまれながら館外に……。

公園の中の慰霊碑を見ながら開会をまつ。折鶴にかこまれた動員学徒慰霊碑に、だきつように白いタオルでふき清めるおじいさん。昭和20年8月7～8の二日は新聞が発行されなかった。その空白を埋めようと当時爆心地をめざした記者、カメラマンが当時の気持そのままつくった「広島特報」が配られ、状況を生々しく伝えた。

当時の被害状況を再現しようと屋根カワラをガスバーナで焼く実験をする若者たち。

開会し数人がつれだって思い思いに各会場に分かれて参加。夕ぐれがせまり、参加の人たちも帰っていく。

次の日、連日の集会準備でお疲れの中を広島被団協の方三名が、交流会に参加して下さった。六〇名で、集会の感想をのべあい、広島現地の話しをきく。

"分裂と保守化"の中で被爆体験をもつものの疲れと風化現象をどうやってこえるか、苦闘しながらも、とにかく、原爆の恐ろしさ、戦争はいやだと、沈黙るみなさん。「広島現地で原水爆のおそろしさを認識するだけでも有意義」「反戦の平和の闘いを再構築したい」「ぜひ語り続けてほしい」と私たち。

新宿の桜田君がレポート「この地球から核の脅威をとり除き、戦争のない社会を実現するために——私たちにできることは何か」を発表。歴史的集会に参加し、それぞれが、それぞれに感激し帰京……。さあ東京集会に——。

原爆慰霊碑の前に花が絶えない

核兵器廃絶を願って一人断食を決行する参加者も……。

第二回国連軍縮特別総会に向けて

婦人の行動を広げる会

あごら、家庭科の男女共修をすすめる会、草の実会、国際婦人教育振興会、国連NGO国内婦人委員会、主婦連合会、新日本婦人の会、全国地域婦人団体連絡協議会、戦争への道を許さない女たちの連絡会、総評主婦の会全国協議会、大学婦人協会、退職婦人教職員全国連絡協議会、中立労働組合連絡会議青年婦人対策委員会、東京都地域消費者団体連絡会、独身婦人連盟、日本看護協会、日本キリスト教女子青年会、日本基督教婦人矯風会、日本主婦同盟、日本女医会、日本女性同盟、日本生活協同組合連合会、日本青年団協議会、日本母親大会連絡会、日本婦人有権者同盟、日本有識婦人クラブ連合会、日本労働組合総評議会婦人局、働く婦人の会、フェミニストの会、婦人国際平和自由連盟日本支部、婦人民主クラブ、婦人民主クラブ再建連絡会、平和のために手をつなぐ会（五十音順）

汎太平洋東南アジア婦人協会、日本婦人会議、日本婦人科学者の会、日本婦人団体連合会、日本婦人法律家協会、日本婦人有権者同盟、日本有識婦人クラブ連合会、日本労働組合総評議会婦人局、働く婦人の会、フェミニストの会、婦人国際平和自由連盟日本支部、婦人民主クラブ、婦人民主クラブ再建連絡会、平和のために手をつなぐ会（五十音順）

第一回 欧州婦人教育事情視察の旅

婦人活動の本質を探るための「特別企画」

昭和二十五年の創刊以来、全国婦人新聞社は国内外の婦人問題をテーマにとりあげてきていますが、日本と欧米の事情を比較してみますと、まだまだ日本が学ぶ点がたくさんあると思います。特に欧州においては、婦人の教育・成人教育施設の充実、社会参加、婦人活動の充実、ボランティア活動の積極さなど目をみはるものがあります。

そこで、日本で婦人の地位向上、社会参加その他婦人活動に積極的にとりくみ、さらに資質の向上をはかりたいと思っている方々を対象に、実際に欧州へ出かけて、婦人教育機関、婦人団体などとの交流を通じて婦人活動・教育事情を学ぶ研修旅行を企画いたしました。この目で見た海外の状況は、今後の地域における婦人教育・婦人活動に、必ず役に立つと確信しています。皆様のご参加をお待ちしております。

なお研修先の施設と訪問の目的は個別に各号で連載します。

実施要綱

☆日時　昭和五十七年十月十七日(日)～十月二十八日(木)　十二日間
【西ドイツ・オーストリア・スイス　フランス】

☆研修訪問都市
◎ボン（西ドイツ）……連邦文部省、連邦青少年家庭健省、ドイツ婦人評議会、ボン市内小学校
◎ウィーン（オーストリア）……ウィーン婦人連盟

☆主催
◎パリ（フランス）……ユネスコ婦人教育課、婦人情報センター

☆費用　四十七万八千円（全朝食付）

☆対象
●婦人教育指導者
●地方自治体婦人問題担当者
●婦人学級リーダー
●婦人団体関係者
●その他婦人教育・婦人活動に関心のある方

☆コーディネーター　研修旅行をより有意義にするために同行の学識経験者一名を目下選考中

☆旅行取扱
全国婦人新聞社
〒160東京都新宿区西新宿三—七—二八
電話（〇三）三四三—一八四六
近幾日本ツーリスト㈱
虎ノ門海外旅行営業所
〒100東京都千代田区霞ケ関一—四—一
電話（〇三）五〇二—二九二二

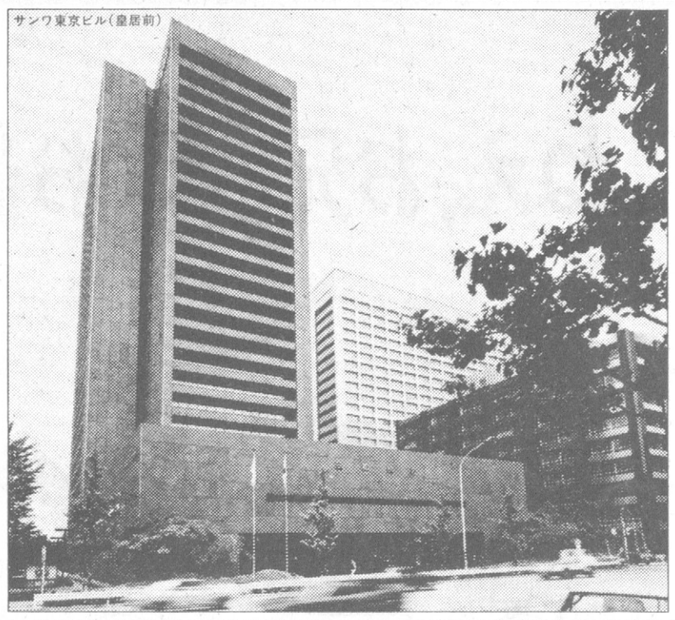
婦人手帳

★★★　戦争ごっこかと思っていた英国とアルゼンチンの紛争は次第にエスカレートしてきた。まさか米ソが直接介入したり、"核ボタンが直接介入したり"といった物騒なことにはなるまいと思うが、なにしろサッチャーさんの鼻息が凄い。あの頃の"打ってしまん"そっくりだ。〈サッチャーの夢七つの海に君臨す〉〈ここはまだ大英帝国の植民地〉南極の資源に対する思惑とかいろいろあるそうだが、よそ目で見れば、大イギリスともあろうものが、「なんであんな辺地へ行って戦争せんならん」と思われる。戦争というものはもともと不合理で非論理的なもの。イラン・イラク戦然り、徒らに人命を損い、国土を荒廃させただけではないのか。

★★★　残念ながらこうなると国連も無力にみえる。優先するものは国家エゴで、それは国民にとって不幸の種だということは、私たち日本人が一番よく知っている。〈英アイイ愛国心が殺し合う〉。正直いって、その戦争は直接日本に関りがないからノンビリ観戦という気持がないではないが、戦争というものの非条理性は何時どんな展開をみせるか。〈英ア戦背後の影が不気味なり〉〈アメリカが、アルゼンチン軍の暗号を傍受解読して英軍に流しているとか、ソの偵察衛星が英兵を乗せたクイーン・エリザベス号を追尾して刻々の位置をア軍に知らせているとか、の報道もあって戦争の形態も様変りしたものと思うと同時に、その程度で済んでくれるといいが、と心配する。

★★★　様変りといえば英駆逐艦シェフィールドが、一発のミサイルで沈められた。いまや狙われたらオシマイだというから大変だ。一九七八年価格でシェフィールドは邦貨換算百億円、ミサイルは八千万円というからバカバカしい限りだが、今後も新兵器の開発が何をもたらすか。因みにミサイルはフランス製「エグゾセ」。〈友邦のミサイルに英艦身を焼かれ〉。武器輸出は先進国の大きな財源となっていることも気に入らない。イスラエル製の武器がアルゼンチンに売られているなどのニュースも。これに核でも加わったら、本当にオシマイだ。

毎日の暮らしに
サンワをじょうずにご利用ください



サンワ東京ビル（皇居前）

みなさまのお役に立つ
三和銀行
●東京本部／千代田区大手町1丁目
●本店／大阪市東区伏見町4丁目
●店舗網／国内240余 海外24

それはもう画期的！

モスクワで核廃絶を訴えて

日本被団協事務局次長　黒川　万千代

ロシア正教ピーメン総主教にあいさつする筆者

察にひろがる若い米兵の入っていたバスとすれちがう。ベトナムでは、ナパーム弾を使っていると聞いたが、「これは法律違反だ」と思った。

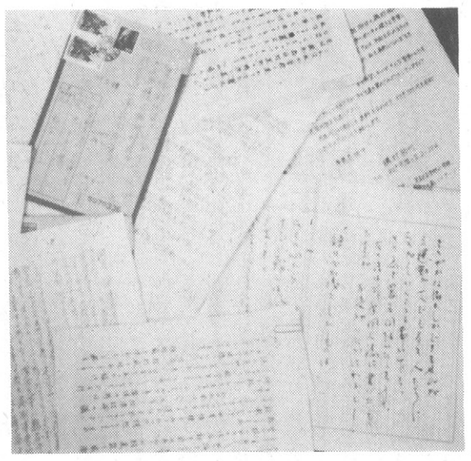
「月に一日だけ、二日間、国際電話がつながる。ここは、ソ連の国際電話だった。

全国から共感、協力の手紙

「婦人の行動を広げる会」事務局へ

「第二回国連軍縮特別総会に向けて婦人の行動を広げる会」の活動が報道されると、平和を希求し、核廃絶を願う全国の女性たちから「何かしなければと思いつつ自分の無力にいら立ちを覚えていました。広げる会を知り、私にも出来ることなら何でもやらしてもらいたいと思います」といった手紙が事務局宛に続々と寄せられている。カンパの寄金、そして集めた署名簿を添え、小学生から七十八十の戦争体験を持つ人たちまで、どの手紙も熱心に真剣に運動の趣旨に共鳴、共に進むことを望んでいる。キナ臭い国内外の動きが、いかに庶民の不安をかき立て、いま立ち上らなければ子供たちを不幸にしたという悔いを千歳に残すことになるという切実な気持が文面に溢れ、母としての本能的なものすら感じられる。次に、数多くの手紙の中からいくつかを抜いてその抄録を紹介する。

全国から署名やカンパが続々と送られて来て、平和への希求のいかに強いかを知らされる。添えられる手紙も、立場を越え思想、年齢を越えて、いまこそ女性が手をつなごうという、真情にあふれ、この草の根運動の深さを改めて感じさせる。



パネル写真に心がいたみ

これは私が学校で集めてきた署名です。先日〝核兵器反対運動〟の場所に置いてあった、いろいろなさんこくな姿になった人々のパネルを見て、心が痛みました。

私はすぐ署名しました。家に帰った後にも、あのさまざまな人々の姿は頭からはなれませんでした。私は何とかして少しでも役に立ちたいと思いました。そして私に出来ることと言ったらこんなことしかありません。たったこれだけの署名でも少しでも役に立てたら……と思います。どうかこれからも〝核兵器反対運動〟ガンバッテ下さい。

（東京都北区王子　吉田なつみ＝中学三年生）

子供たちの迫力に押され

私は小学校六年の担任をしていましたが、私のクラスの子ども達が、太平洋戦争の当時の世の中の様子を学習していて、大変な迫力で私に迫ってくるのです。それは平和を求める子供たちの声であり、叫びであります。その気迫に真剣になろうとそうなくなった時、新聞を読んで「広げる会」の活動を知りました。署名簿を希望したのはそんな背景からです。

卒業まで約一カ月間ですが子供たちも集めてみようとしていますので署名用紙をお送り下さい。

（松戸市緑ケ丘　磯村裕行）

戦争体験者の責任として

七十歳を迎えた老婆でございます。戦争中私は聖戦とか大東亜共栄圏の建設とか……おかしいと思ったこともありますが、真相を追及する術もなく努力もせずに鵜呑みに近い状態で信じ満州事変以来、親せき同僚、知人を日の丸の旗で励ましながら戦地へ送りました。……まただまされてなるものか、そういう目で各種の報道をみますと急速に気になることばかり起っています。中国の残留孤児、戦後のまだ終っていない沖縄の問題、憲法のワクを越えて暴走し始めたかにみえる軍拡。核戦争に巻きこまれかねない防衛族の動きなど……

原爆展も二回、「人間を返せ」の映画もみせて頂きました。怒りの涙を反戦・反核・軍縮へ向けて

戦争反対に何が〝行動〟を

私は二十五歳の、翻訳を勉強中の独身者です。法律や政治に関心があり……。

私は戦争には絶対反対ですし、自衛という名目で戦争を正当化しようとする人々やソ連の脅威を持ち出して、だから日本も軍備を強化した方がよいなどと考える人達の気持ちは理解できません。日本のみならず、全世界でどんな小さな戦争も起ってほしくありませんし、核戦争などもってのほかと思っています。こんな私に、何かお手伝いできることはないかと思って……。今までの私は、関心はありましたが、いつも受け身でした。でも今年に入ってから、何か行動を起さずにはいられないような気持ております。

この機会に、貴団体が具体的にどのような活動をしておられるのか、また私にお手伝いできることがあれば、お声をかけていただければ幸いです。

（横浜市港区　菊地幸子）

〝私に出来ることを〟

内外の情勢に強い不安

始めたかみえる軍拡。核戦争に巻きこまれかねない防衛族の動きなど……

原爆展も二回、「人間を返せ」の映画もみせて頂きました。怒りの涙を反戦・反核・軍縮へ向けての行動に移すことが戦争を体験した者の戦死された方々へ、また戦争を経験しない方々への責務だと思っても、どこからどう手をつけたらよいか歯がゆい思いをしておりました矢先「広げる会」の結成を知りました……

残り少い人生孫の幸のため

落付いていられない気持です。我々は人生の残り時間は少ないのです。

語りべが残したものは

この運動一人でも多くの子にと希いながら。

〝語りべが残したものは〟
ひとの心から
すでに戦いは風化―
歴史の中の
風景となってしまった
とき

メッセージが
今も
波の彼方から
ひゞいてくる
君たちは
今、
何をしているのか

きたるべき世代に
のぞみたくし
遠海原に
燃えつきて
逝った
彼らが
希ったものは―

雪景色の中にも
海辺のやけつく砂原にも
街の雑踏にさえ
わたしたちが
ひたすら
追いもとめてきたもの
であったろうか

もはや
わたしたちは
すべてを
わすれ去ろうとしている
せめて
一人の親が
ひとりの子に
語りついでいかねば

戦いのむなしさを
平和の尊さを
平和と言ういしずえの上に
立って
なすべき事を
でも　今
あの散華からの
問に
わたしたちは
こたえる
何のことばも
もたない

（町田市東玉川　江頭清子）

散華の世代からの

三十余年の歳月
間を長めにとること。そして初日は一生懸命歩くことだそうです。

「酸素が少いのに歩くの？」と、けげんな顔をする人が多いようですが、歩くことによってかえって酸素を身体にたくさんとり入れることができるのだそうです。

そんな駐在員事務所で、商社マンの一日は、毎朝九時、東京からのテレックスを三十本ばかり読みとおすことから始まります。日中は、内地からのお客の出迎え案内や現地の公社との連絡で時間一ぱい。午後六時ごろ現地人職員が帰宅したあと十時すぎまでかかって東京あてに報告や連絡のテレックスを打ち机の上を整理して、満天に輝く星をいただいて家路につく。

そして日曜日には、日系二世の人たちの野球チームの監督をつとめるという生活ぶりです。

こんな近況を知らせてくれたN会社のK君は「高地での多忙な駐在生活はきびしいけれど、思う存分力を発揮できて、やりがいのある充実した日々。夜、家路につく時には、本当に南十字星に手がとどきそうです」と手紙を結んでいました。

（日本貿易会商社委員会調べ）

世界のなかの日本

南十字星とともに

標高四千メートルの駐在員生活

海、山の季節。富士山の人気も相変らずですが、一年中、富士山の頂上と変らぬ高地で暮らすということになるとどうでしょう。気象観測のためではなくて、貿易の第一線基地として標高三、七六〇㍍の高地にあるボリビアの首都ラパスに駐在している総合商社マンもいるのです。

なにしろ〝天国にもっとも近い街〟といわれるところですから酸素が稀薄で、馴れない人は夜中に三、四回も眼がさめるというほどです。

そのラパスの空港は、市街地からさらに高く標高四、〇五六㍍の高原にあります。ですから駐在員が、内地からの出張者を迎える際には、高地に馴れないお客さまのために酸素ボンベを用意しなければならないといいます。

日本からのお客さまを迎えた駐在員の仕事は、ボリビアの政府機関や取引先の事務所へ案内するより前に〝高地生活〟の知恵を伝授することから始まるのです。

〝高地生活〟の要領の第一は無理をしないこと。飲みすぎ、食べすぎを避け、睡眠時間を長めにとること。そして初日は一生懸命歩くことだそうです。

「酸素が少いのに歩くの？」と、けげんな顔をする人が多いようですが、歩くことによってかえって酸素を身体にたくさんとり入れることができるのだそうです。

そんな駐在員事務所で、商社マンの一日は、毎朝九時、東京からのテレックスを三十本ばかり読みとおすことから始まります。日中は、内地からのお客の出迎え案内や現地の公社との連絡で時間一ぱい。午後六時ごろ現地人職員が帰宅したあと十時すぎまでかかって東京あてに報告や連絡のテレックスを打ち机の上を整理して、満天に輝く星をいただいて家路につく。

そして日曜日には、日系二世の人たちの野球チームの監督をつとめるという生活ぶりです。

こんな近況を知らせてくれたN会社のK君は「高地での多忙な駐在生活はきびしいけれど、思う存分力を発揮できて、やりがいのある充実した日々。夜、家路につく時には、本当に南十字星に手がとどきそうです」と手紙を結んでいました。

（日本貿易会商社委員会調べ）

待ち望んでいたものが

孫の手に銃を持たすといふならば立ちはだかりてもわれは阻まん

新聞で「広げる会」発足を知って、これだ、私が今まで待ち望んでいたことはとペンをとりました……。

戦死の報を死ねと読みつつ子供等に食ませし雑草よ今も青きか

当時二人の子供を残されて夫の戦死の知らせ……何回も読みかえす涙の目に「戦死」の二字が私には「死ね」と書いてあるように、それほど情なく悲しい知らせでした……。

この清夫のねむれる海の果遥らぬ息吹を求め手を触る

終戦時、故郷鹿児島の海を見つめてはああ、この海は北海の果、南国の果まで続き、夫はこの海の底のどこかにねむっていると……軍縮、核兵器廃絶、声を天にして叫びたい。

（大阪市西成区　松下トシエ）

この子を戦場には送らない

私、昨年四月に出産し一男児の母になりました。彼のあどけない寝顔を見る度に自立した立派な男性になり素敵な女性にめぐりあい愛しあい一生穏やかに暮してもらいたいと考えます。

絶対に兵隊などにとられて欲しくない。「お国の為に」と信じ込み、日の丸のはちまきを巻いた殺人者にしたくない。……反面、もし日本が第二次大戦の時のような国情になったら私はどこまで反戦を口に出せるだろう。とても勇気がありません隣人を殺せば罪人なのに、戦場では多くの人を殺す程名誉になるという異常な状態をどこまで思い続けられるか、自信がありません。

そうならない為にも、今のうちに私の出来る事をやって置きたいのです。どうぞ、なんかのかたちで私も皆さんの活動に加えて下さい。

（山形市下条町　梛橋セツ）

女性こそ平和を守るために

資料及び署名用紙（十枚）をお送り下さい。

私はどこの団体にも属さない一人の主婦ですが、以前から世界の情勢に危機感をもっておりました。こういう時こそ、すべての、ことに女性こそ平和を守るために結集し、闘わなければと常に思っておりましたが、私のような者には発言する場もなくて、居ても立ってもいられない気持でした。新聞でこの運動を知り、これならできると、子供のためにも微力をつくしたいと思います。

（宮城県加美郡中新田町　諸岡　則子）

勇気を出して一歩踏出そう

署名のお手伝いを頼んだら、たくさんの方々が引き受けてくださったり、また快く署名して理解を示してくださり、運動の進展に明るい光がみえたような気がしました。

でもこんなこともありました。赤ん坊をおんぶした三人の中には一貫した生命の尊重と平和に対する愛、思いやりがあります。今こそ女性が立ちあがらねばならないと思います。目先のことに捕われず、家のことから外のことへ目を向けたいものです。……

（福岡県宗像市　佐野美千代）

署名集めつつ本音語り合う

わずかな数の署名しか集めることができませんでしたが……一歳になる息子を連れて公園に散歩に出かけては、同じように子供を遊ばせている人たちにお願いしました。皆さんも子供の将来を考え、何とかしたいという気持を持っていらっしゃるように見受けられました。私も最近の政治動向が気になっているのですが、全く話したこともない方々とこの署名運動を通して、日頃考えていることを、不思議なくらい気軽にお話しすることができました。先の戦争をくい止めることができなかったのも一つには、主婦たちの間で〝本音〟で話をすることができなかったことにも原因があるのではないでしょうか。息子や娘たち（まだとても幼いのですが）の将来に平和な時代を望んでいる人たちの多いことを強く感じました。にもかかわらず現実は決して予断を許さない状況に向っています。

私もはじめて、こうした運動にこのような形でかかわりを持つようになりましたが、これからも、日常的に参加できる、そうした運動があるなら加えてもらって自身の生きる方向のようなものを確認しながら生活できたら。そしてそんな考えの人が孤立しているのではなく、手をつないでゆけたら……などといろいろ考えさせられております。

（埼玉県坂戸市　井上　智子）

字を覚えた娘にも署名させ

私は被爆地長崎で生れました。実家のすぐ近くに、爆風で片足だけになった「片足鳥居」は市内観光の一つですし、学校の先生方にも原爆にあわれた方が何人もいらして度々、話を聞かされてまいりました。

でも、私には本や教科書に書かれている歴史のようなものでした。70年安保の時はまだ中学生だったし、平和というものは空疎のようなものと思っていました。それが今、自分達で守らなければならないような切羽つまったものと感じています。

私には今度幼稚園に入る娘がいます。彼女に平和の意味を教えたいと思っています。

ようやく自分の名が書けるようになったので、彼女にもぜひ署名させたいと思っています。どれくらい集められるかわかりませんが、とりあえず、二～三枚お願いします。

（長崎市横尾　池田　淳子）

魂をゆさぶる地底からの声

私の二男は、今大学で経済理論の講師をしておりますが、七十年安保の折はノンセクトの一般学生としてデモに参加、共に学生であった嫁は「あんなに頑張ったのに、結局挫折感を味わってしまった」とこぼします。

「挫折感を味わっている暇もない程、事態は悪化しているのだ」と今度は私共年寄りの方が必死になってまいりました。嫁の祖父は長崎原爆当時、長崎大学附属病院で外科医として患者を診療中、窓から入ってきた閃光で、患者は一瞬のうちに倒れ、自身はコンクリートの壁を背にしていたため助かりましたが、「長崎の鐘は鳴る」をお書きになった、故永井先生と共に生き残った人々の手当てをしたのです。

医療品は乏しく、気やすめにアカチンを塗るのみと手記を残しております。語りつくされない程の地獄図をみた祖父は、戦後、大学長になりましたが、七年前に八十三歳でなくなるまで平和行進の先頭にたって行動……

私の孫のうち、女の子は小児ぜんそくになり、目下公害認定患者となっております。この孫が発作で苦しむ時、私はなぜか原爆の地獄図とだぶってしまうのです。幼い命が叫ぶことも出来ないまま力尽きていったが……この子らの声は地の底から声なき声となって、私の魂をゆさぶり続けます。ベトナム戦争の折、アメリカの知人は「私のおいは、兵役を拒否し刑務所に入れられた」と胸を張っていました。その家族は、ほほえみと讃美歌で彼を見送ったといいます。身近かに勇気ある、平和を愛する人々に支えられ、国境を越えて全世界に平和を広げていきたいと祈っております。

（東京新宿　荒木綾子）

私たち女性が主体性を持ち

私も主人も戦中派の四〇歳です。親や祖母に背負われて逃げた日々をはっきり覚えています。父は七〇代ですが、満州にいた時の凍傷が痛み出しています。多くは語らない父ですが、すさまじい日々だったようです。……私たち母親が子供を守り、日本を、世界を平和の一色に塗りかえるためにも、核・戦争をなくすよう主体性、独立心を持って手をつなぎ合っていかなければならないと思います。

主人は〝そんなものに首をつっこむな〟といいます。今までの女性達は、めんどくさい、せわしい、主人が言うからなどといって止めたでしょう。

しかし私共は厳しい現代の中に生きています。苦労もしてきていますし、戦争も幼い心の中に覚えている年代です。私はこのまま何も言わず、せず、じっとしている気にはなれません。私は宗教を持っています。私の信仰は、ほんとうの平和の尊さを、平和と言ういしずえの上に立って、なすべき事をと、今、あの散華からの問に、わたしたちはこたえる、何のことばももたない、という思いです。

（北九州市小倉　多久和喜美子）

署名集めつつ本音語り合う

わずかな数の署名しか集めることができませんでしたが……一歳になる息子を連れて公園に散歩に出かけては、同じように子供を遊ばせている人たちにお願いしました。皆さんも子供の将来を考え、何とかしたいという気持を持っていらっしゃるように見受けられました。私も最近の政治動向が気になっているのですが、全く話したこともない方々とこの署名運動を通して、日頃考えていることを、不思議なくらい気軽にお話しすることができました。先の戦争をくい止めることができなかったのも一つには、主婦たちの間で〝本音〟で話をすることができなかったことにも原因があるのではないでしょうか。息子や娘たち（まだとても幼いのですが）の将来に平和な時代を望んでいる人たちの多いことを強く感じました。にもかかわらず現実は決して予断を許さない状況に向っています。

私もはじめて、こうした運動にこのような形でかかわりを持つようになりましたが、これからも、日常的に参加できる、そうした運動があるなら加えてもらって自身の生きる方向のようなものを確認しながら生活できたら。そしてそんな考えの人が孤立しているのではなく、手をつないでゆけたら……などといろいろ考えさせられております。

（埼玉県坂戸市　井上　智子）

字を覚えた娘にも署名させ

私は被爆地長崎で生れました。実家のすぐ近くに、爆風で片足だけになった「片足鳥居」は市内観光の一つですし、学校の先生方にも原爆にあわれた方が何人もいらして度々、話を聞かされてまいりました。

でも、私には本や教科書に書かれている歴史のようなものでした。70年安保の時はまだ中学生だったし、平和というものは空疎のようなものと思っていました。それが今、自分達で守らなければならないような切羽つまったものと感じています。

私には今度幼稚園に入る娘がいます。彼女に平和の意味を教えたいと思っています。

ようやく自分の名が書けるようになったので、彼女にもぜひ署名させたいと思っています。どれくらい集められるかわかりませんが、とりあえず、二～三枚お願いします。

（長崎市横尾　池田　淳子）

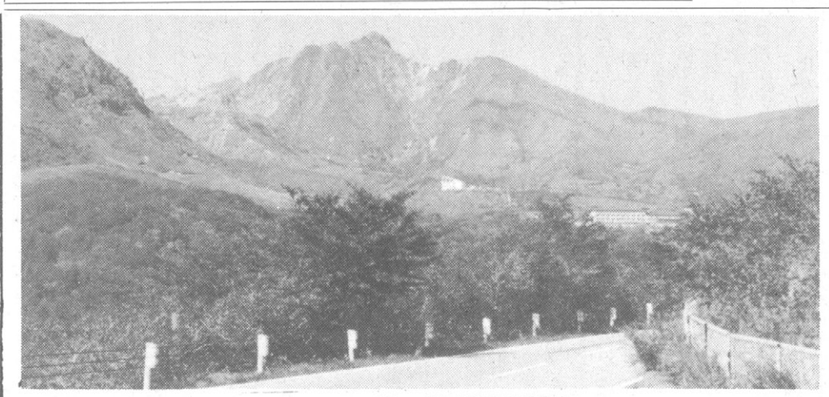
なんと150兆円

世界の軍事支出

スウェーデンの非政治的独立研究機関であるストックホルム国際平和研究所（SIPRI）は五月二十七日、全世界の昨年の軍事支出は約六千五百億㌦（約百五十兆円）に達したと発表した。

米国が千三百四十億㌦、ソ連が千百八十八億（いずれも七九年のドル換算）だった。

また英ア戦争などで問題になっている武器輸出に関しては、ソ連が全体の三六・五％でトップ。米国が三三・六％で二位。以下フランス（九・七％）イタリア（四・三％）英国（三・六％）西独（三・〇％）と続いている。日本の八一年の防衛費は九十四億六千万㌦に増えたが、GNPの一％内と指摘している。



ボルケイノ・ハイウェイから那須岳を望む

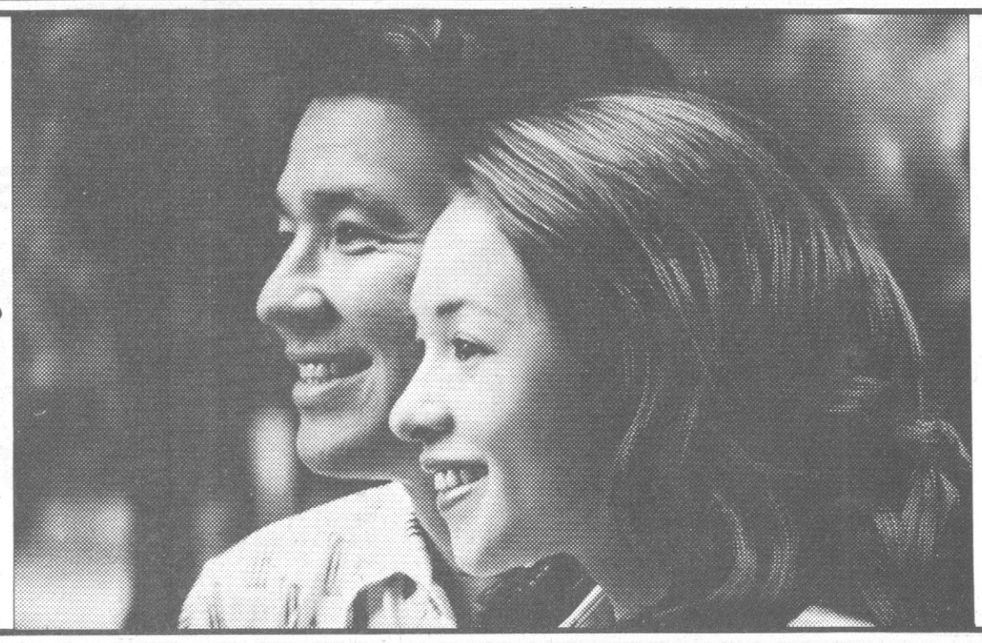
いま、旅立ちの時。

那須荘は貴女の別荘です。

ご自由にお使い下さい。

全国婦人新聞社が厚生事業の一環としてオープンした「那須荘」も、今年で3年目。
春は石楠花、夏はツツジや山ユリ、秋は紅葉、冬はスキーと四季折り折りの変化があって楽しさ十二分です。
近くには、千本松・南ケ丘牧場をはじめ、りんどう湖、那須ロイヤルセンター、ハイランドパークとレジャーにも事欠きません。目の前に立ちはだかる那須岳の登山も、ちょっと足を伸ばすだけ。
那須高原名物の山菜料理やジンギスカン料理を味わえるドライブインもすぐそこです。
研修や学習会、行楽に、春夏秋冬を通して、お気軽にご利用下さい。
▽全国婦人新聞社「那須荘」
▽あし…国鉄東北本線黒磯駅下車。「那須湯本行」バスで新屋下車、徒歩10分。
▽使用料…無料。但しガス・電気・水道その他の管理実費として、1人1泊1500円必要です。（ただし、冬季は2,000円）
▽申し込み…全国婦人新聞社　〒160東京都新宿区西新宿3－7－28宝幸西新宿ビル
☎03－343－1846（東京）
06－771－7415（大阪）

通帳のなかで迷っているお金、
定期にしてゆとりをつけましょう。



ふだんの暮らしに役だつ
使いこなしたい、定期です。

毎日の暮らしに必要な額だけは、普通預金に預けておいて、残ったお金は総合口座の定期預金にしておく…。まとまった資金づくりの手がかりができます。コースは2年・1年・6ヵ月といろいろ。思わぬ出費が生まれたら《協和》の自動融資で総合口座にお預けの定期預金の総額の90％、最高100万円まで自動的に借りられます。いま通帳の中で迷っているお金は、いざというときにも役に立つ総合口座の定期預金にしておきましょう。ふだんの暮らしに弾力がつきます。

使いながら貯めて、貯めながら使う。

総合口座の定期預金

協和銀行